

じむきょくだより

全史料協関東部会
事務局
No. 3
2010,9/11

257回定例研究会in戸隠 無事終了！！

第257回の定例研究会が7/30～31に長野県長野市戸隠で行われました。ご友人やご家族でご参加いただいた会員も多く、17名のご参加をいただきました。

1日目は、宝光社の270余段のきつい階段を登りその後は中社へ。戸隠神社責任役員の越志氏より戸隠神社の神仏分離の経緯についてお話をお聞きした後、正倉院や法隆寺などを含め、日本に5本しかないといわれる重要文化財の牙笏や一字法塔経（重文）をはじめ多くの貴重な文書を手に取りながら拝見させていただく機会を得ました。

その後は全員でお祓いをしていただき、戸隠神社のパワーいただきました。丁度宝物殿建設途中で屋根の銅板寄付が行われていましたので、全員で1枚の銅板に名前を書かせていただき、宝物殿建設にも微力ですが関わらせていただきました。

夜は、NHKでも特集が組まれた、登録有形文化財である極意旅館に宿泊し、懇親会を行いながら、夜遅くまで語り合うことができました。

二日目は、朝のお勤めにも参加させていただきました。神道のおつとめの中に般若心経が唱えられる神仏分離以前の形式に一同また感激し、朝食後奥社に向かいました。ここでは文書に見られる石碑を中心に戸隠神社聚長である二沢氏より解説をいただきました。樹齢400年を超える杉並木の中を約2km歩くと、ようやく奥社にたどり着きました。

その後は、宿のご厚意で戸隠連山が見渡せる鏡池に向かい戸隠の自然の豊かさを満喫できました。

2日間の研修でしたが、戸隠の歴史、文化、自然、食、そして人に関わることができた貴重な時間になりました。極意旅館のご主人は元プロのカーレーサーであり、時には宿のマイクロの運転手、時にはそば打ち職人、神官など様々な役割を何役もこなしているバイタリティーのある素敵なお方でした。さすが今流行の Powerspot だけに若者も以前より多く活気ある戸隠を感じることができました。参加者への御利益が今後どう現れるかも楽しみに・・・。



宝光社にて



文書閲覧風景



鏡池より戸隠連山を望む

会費納付にご協力ください

会費納入締め切りが 8 月 31 日となっておりますが、約%の会員に納入いただきました。当会は会員の会費によって運営されている団体ですので、是非ご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。

今回再度会費請求書を同封いたしました。未納会員はぜひ 10 月末までにお振り込みいただきますようお願いいたします。

10月29日(金)までにお振り込みを！！ m(_)_m

第258回定例研究会 (江東区文化センター)

今回第 258 回の定例研究会のご案内を同封させていただきました。皆さんが集まりやすい東京都内で計画しましたので、是非多くの会員の皆さんのご参加をお待ちしております。(東京メトロ東西線「東陽町」駅下車 1 番出口より徒歩 5 分)

「公文書に関する管理法」施行までいよいよ半年を切るこの時期だからこそ、各自治体でも考えなければならない点などを問題提起していただく予定です。お忙しい中ですが、ぜひご都合をつけてご出席ください。(第 259 回は 12 月 17 日板橋区公文書館で実施予定)

定例会後は、毎回恒例となりました懇親会も計画しておりますので会員の皆様の多数ご参加をお待ちしております。(当日申し込みで結構です。)

～ 終戦65年・・・アーカイブズによって成り立つTV番組 ～

この夏は、戦後 65 年という節目の年にあたり、例年より某国営放送の戦争関連番組が多かったと感じたのは私だけだろうか。満州移民やシンドラーの日記、元兵士の証言や戦争孤児の話題など戦争体験者や生存者が年々減少している事態をふまえ、証言で綴る番組構成が多くなっている気がした。だが、こうした番組構成もあと 10 年は続かないだろう。

また、番組最後のエンディングには「アメリカ公文書館」の文字が多く見られた。8 月半ばには同館で第二次大戦時の激戦地である硫黄島での日本兵の埋葬の様子が記された文書が残されていることも大きく報道されていた。日本のことでありながら他国の公文書館に多くの史料が残り、他国の文書館を通しながら日本の過去や真実を知らされる現実がある。このことは本年度当会の総会で行われた東大川島先生のご講演内容とも関係することである。近隣アジア諸国から日本を見ることができるのは、人々の記憶もさることながら正しく書き留められた”記録”からであろう。

我々が日々向き合っている文書から大きな歴史のうねりを感じることは国の機関以外まれかもしれないが、うねりの中でどんな政策が実施されていたのか、その中で人々はどのように生きていたのかという生活者の息づかいは感じとることができる。

今はまだビジュアル面での「アーカイブズ」という言葉のみが浸透しつつあるが、図書館司書や学芸員と並び「アーキビスト」が一般人にも認知され、国家資格となるような時代になってこそ日本にも本当の意味での民主主義が定着し、文書や記録の大切さが浸透してきたといえるのではないだろうか。(事務局：下)